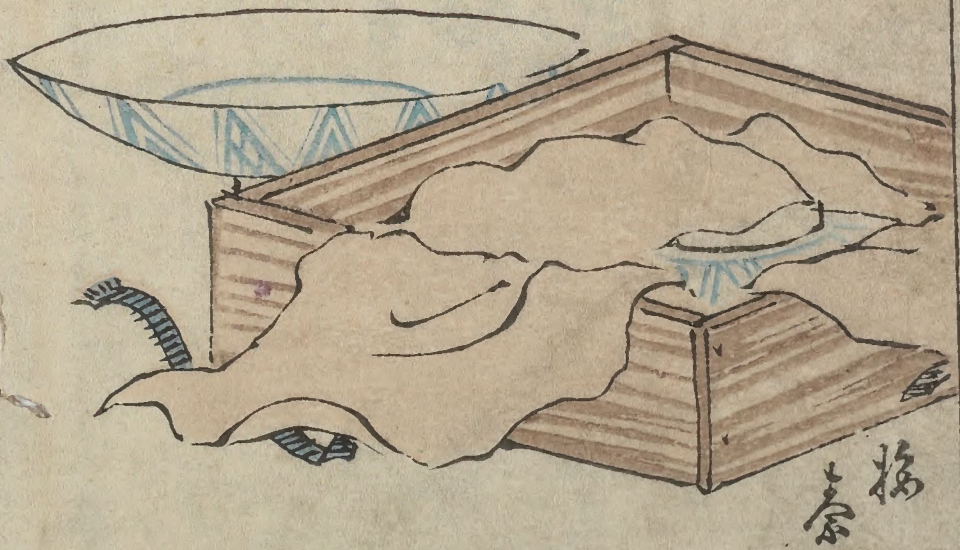
皿皿郷談　完

E 24
337

皿皿郷談

曲亭馬琴著

滑稽堂梓



醫學士森林太郎圖書之記

皿皿郷談序

無本之學。搆虛之說。稗官以傳于稗官。幻緣化境。追風捕影。其書雖奇而妙。君子不取也。謂之無益於世教。可以廢焉。設夫深窻茶酒之餘。一置之坐右。披卷以讀。乃長夜之睡魔。千秋之愁陣。可袪可排。況博達明知之士。游談以解懸。類情爲喩。勸懲莫捷於此。昔西方聖人。緣業以諭愚俗。東方曼倩。詼語能諷人主。夫方便之與滑稽。指旨異而智一揆。其言一出于世。朝野靡然從之。於是乎稗官之書。可施可行。是予所以有此撰也。雖然。學術之源有淺深。而巧拙判焉。智揆之發有遲速。而長短見焉。夫生知之學。雖聖不敢自處。只困學之知。琢磨之功。可以到其境矣。豈不亦難哉。昔嘗有其人。胷蓄天地之秀。腹

四四郷談總目

加良縞之巻第一

第一條　鵲乃山別尓比布　唐縞親子加羈旅乃樓難
第二條　欅葉乃楓登名尓志負婦　繼橋可女児延五十日
農祝
第三條　山寺乃月仁更計手留　乞旨乃疊六迦独樂雙陸

金剛神之巻第二第三

第四條　頼光乃髭切丹擬辺之　里見延重寶繊月佳刀
第五條　賢女農謀耳恥遠雪流　私卒丁七用力乞能山岳
第六條　櫻花乎宿乃嵐雨驟久　繼橋宗郷可哀別乃涙雨

阿琳衣之号第四

第七條　烏夜耳迷天魂遠撲津　天目洲助賀再節乃中槐
第八條　梦乎白天讐乎撃津　烈女鮮衣加嗟歎乃霧海
第九條　崇乎依天帰乎失布　壯士加帰郷乃後悔

嬖耳四之巻第五

第十條　功遠讓里恩迷応妇　節婦義僕可入江乃水屍
第十一條　分鏡再以合布　舊妻兩女伽名簿延郷導寺

迦氣皿之巻六七八
第十二條　主乃為尓縁乎結不　侍兒渡鵲可百夜乃密語
第十三條　姪乎技天珠遠沈流　天目濃印加夜河迦秘禊
第十四條　三囚驚大怨仁報布　正木時忠可邂逅乃戯謔
第十五條　衆悪善自赴久　孝女闘皿伽法會能功德
總目畢

皿皿郷談巻之一

東都　曲亭馬琴編演

第壹　鷂の山とられに比ふ　唐縞親子が羇旅の横難

萬松院足利義晴公將軍たりし時。武家第一の執權ハ。右京大夫高國と。左京大夫晴元なり。これを京都の兩管領といひけり。抑高國ハ。式部大夫政春が子なりしを。前管領政元朝臣。養ひとりて繼嗣にせり。又晴元ハ。前管領澄元朝臣の嫡子なり。共に將軍の一族にして。細谷川のすゑ廣く。威權四海に洋溢して。富貴ハおのがまゝなれども。兩雄ハ並立ず。高國晴元確執して。合戰しば〳〵ありしかバ。京攝一日も靜ならず。時に享祿四年夏。六月攝津國天王寺の戰ひに。高國いたく打負つゝ。尼崎のほとりにて。忽地自殺したりしかバ。賴究たる兵士等。撃るゝもあり。落るもありて。おのがさま〴〵になりになり。かくて後晴元ハ。權を三好に奪れて。三宅の城を追落され。丹波路に呻吟。嵯峨野に躱れ。近江の濕田に漂泊して。在がひもなき世をわびしらに。永祿のはじめの比旅宿に病て身まかりつ。京都の管領こゝに絶たり。さ

の上壽をたもちぬ。又彼正木時綱ハ。元來根古屋の城主なり。其子左金太郎時忠にハ。那古の城を給ハりて。父子もろ共ニ君を補佐し。良臣と稱られ。その家ながく榮しとぞ。古語ニいハずや。積善の家にハ。餘慶あり。積惡の家にハ。餘殃あり。素太夫が沈落ハ。その父素卿が不仁ニ起り。繼橋の家の榮ハ。その女缺皿が至孝ニよれり。もし缺皿が心もて親に事へ上ニ繼母の不慈なるありとも。竟に慈母となりて。和睦繁昌せん事疑ひなし。宜なるかな。天道ハ盈るを虧。々として缺るものハ。滿るといへども溢れずとハ。老氏の所云不爭の德是なり。試ニ問ふ童男稚女。紅皿を取らんか。缺皿をとらん乎。われハ缺皿の虧たると取らん。これこの作意の要領なり。

皿皿鄉談三編終

明治十五年十二月廿三日御届
同　十六年六月　一　日出版
（定價十七錢）
飜刻兼出版人　東京府平民　秋山清吉
東京日本橋區室町三丁目九番地
發賣元　滑稽堂
東京日本橋區室町三丁目九番地
大賣捌　丸屋鉄次郎
東京日本橋區通り三丁目

東京芝太神宮前　山中市兵衛
同　芝櫻田町十番地　春陽堂
同　飯田町二丁目　武田平治
同　裏神保町　鶴聲社
同　銀座二丁目　愛善社
横濱太田町三丁目　萬字屋孫次郎
同　吉田町二丁目　平野屋支店
陸前仙臺大町四丁目　木村文助
同　仙臺國分町　阿部勘右衛門
越後長岡裏一ノ町　大橋新太郎
甲府柳町二丁目　柳正堂
同　柳町四丁目　東甲堂
三州豐橋上傳馬町　錚々舍
下總千葉　立眞舍

（姓氏）〔主人公〕經橋氏樞（缺四） 唐縞氏紅四
〔臣族〕足利義澄 足利義晴 細川右京太夫高國 細川
左京太夫晴元 大内義輿 里見兵部太輔義堯（源四郎廳
南四郎御曹司、浦田殿） 長尾殿 里見藏人（舍連） 里見義豊
〔武士〕唐縞素二郎宗郷（經橋素太夫） 天目隼人滋孝
經橋梁右衛門成之 苗代將監 苗續畑之進 段田挾
左文太（玉穴眞、今道鏡） 段田左善二 經橋小素太郎
正禾彈正時綱 正禾小藏人時吉 正禾左近（金太郎時

忠　宗設

〔庶人〕飯沼丁七　荘柄眞吉　杼二郎平　味噌平

〔女流〕伉城天目氏　唐艸唐縞氏　鵤姫里見氏　鮮
衣縫橋氏　渡鳥飯沼氏　羽生　吾嬬邨根坂

〔僧道〕天目法印浄弁　宗念法師（縫橋梁太郎）題目寺
昭化　疑四和尚

〔悪棍〕乞目叠六（天目洲之助）賽金剛、近江紅葉関　田
子江耽三　五十井墨太

〔化民〕宋素卿（鄞人朱縞）妻唐氏　子韓撫児

〔神霊〕金剛神　鄭姑

○

〔年譜〕起于後奈良天皇享禄四年六月、終于同天皇天
文十九年十月、凡二十年、是為全傳、今推因究果、敷演
作年譜、

○文明十一年　浄弁生、天文十七年、挑鉄皿之時自言、四十失婦、鰥居三十年、今推算得其生誕之年矣、

○永正元年　素卿帰化、

○永正二年　素二郎生、

○永正十一年　鮮衣生、

○大永二年　洲之助出奔、
○大永三年　素卿死于明、素二郎十九、娶卮婉、
○大永四年　時吉生、
○大永七年　真吉生、
◎享禄元年　唐艸渡島生、浄弁赴東、
○享禄三年　紅皿生、
◎享禄四年　高國戰没、素二郎隱于伏見、年二十七、時忠生、
○天文元年　十月素二郎赴東、唐艸五歳、紅皿三歳、途迷失妻子、仕于里見、娶鮮衣、浄弁卮婉等相逢、素二郎改稱素太夫、
○天文二年　九月楓生、
○天文七年　金剛寺怪異、洲之助得辟力、
○天文八年　素太夫遭難、被黜、丁七探怪、渡島來仕、年十六、素二郎上途、羈行乎上野、鮮衣在眞間、
○天文九年　素太夫偏歷下野信濃越後、
○天文十年　四月浴于艸津、遭洲之助、共歸郷、鮮衣丁七殺洲之助自害、鮮衣年二十八、浄弁卮婉等至、

淨六十三、唐艸十四、紅皿十二、楓南九歳、遷于来里、

◦天文十一年 十月小素太郎生、

◦天文十五年 唐艸帰于畑之進、缺皿遭苛虐、

◦天文十七年 眞吉會渡鳥、眞二十三、渡廿二、此年四月下旬片垸等詣金剛寺、時忠與缺皿通、鄭姑之神為之媒、淨弁脫缺皿、紅皿与左文太通、後納為贅婿、

◦天文十八年 小素太郎死、七月紅皿生女子、左文太溺死、

◎天文十九年 片垸等訪畑之進之疾、途犯貴夫人輿、被凌辱、貴夫人着缺皿也、十月五日素太夫等應時忠招于落窪禅寺、缺皿所開大法會也、時吉娶紅皿、時忠年二十、缺皿十八、素太夫四十六、淨弁七十二、唐艸二十三、渡鳥二十三、紅皿二十八、時吉二十八、眞吉二十四、缺皿有二男子、長甫二歳、少甫一歳、